

「アンネのバラ」植樹式が開催されました！

本日15日（日）10時から、区立中央図書館（荻窪3-40-23）で、イスラエル大使、日本ユダヤ教団会長、オランダ王国大使館一等書記官らを来賓に迎え、区民等100人ほどが見守る中、アンネ・フランク関連書籍の寄贈に対する感謝状の贈呈と、「アンネのバラ」の植樹式が行われました。区では、平和を願うアンネの思いを多くの人に引き継いでいくため、今後、「アンネのバラ」を全区立図書館13館へ植えていく予定です。今回は第一弾として、中央図書館へ8株の「アンネのバラ」の植樹が行われました。

今年2月、都内各地の公共図書館などでアンネ・フランク関連書籍が引き裂かれる大変残念な事件が起きました。中でも杉並区は13館中11館で121冊という多大な被害を受けました。その後、区へは、関連書籍の寄贈や励ましの手紙など多くの支援が集まりました。また、事件公表後、「アンネの日記」の貸出し数は事件前の約2倍以上になるなど、アンネの思いが大切にされていることがわかりました。

中央図書館では、多くの支援に対する感謝の気持ちを表すと共に、事件を風化させず、平和を願ったアンネの思いを社会に広げていくため、区立高井戸中学校のアンネのバラ委員会などの協力を得て、区立図書館全館にアンネのバラを植えていくことを決めました。



10時半頃、ルツ・カハノフ駐日イスラエル大使、フィリップR. ローゼンフェルド日本ユダヤ教団会長、オランダ王国大使館ロヒア・ヘッキング一等書記官、そして高井戸中学校のアンネのバラ委員会代表・鈴木千学（すずき・せんがく）君（3年）らにより、中央図書館敷地内に、高さ約30cmの「アンネのバラ」の苗8株が植樹されました。植樹後、イスラエル大使は「多くの方がアンネの平和を思う気持ちを大切にしている事に感銘を受けました。今日は雲ひとつない青空だったので、アンネも空から見ていてくれたと感じました」と話していました。また、鈴木君は「平和を願うだけでなく、その思いを原動力に今回のように行動する事が重要だと思います」と決意を新たにしていました。図書館担当者は「バラは春と秋に年2回花を咲かせるので、その度に平和を願う気持ちを思い出すきっかけになって欲しい」と話していました。

【問い合わせ先】

中央図書館 TEL：3391-4800

総務部広報課 TEL：3312-2111（代表）

～平和を願う気持ちを広げよう～

「アンネのバラ」の紹介



「アンネのバラ」とは、フランク家がオランダの隠れ家で生活していた当時、アンネ・フランクがいつも屋根裏部屋から眺めていた野バラを、ベルギー人の園芸家が品種改良して「アンネ・フランク」と名付け、アンネの父・オットー氏に寄贈したものです。つぼみは赤色で花が開くとオレンジ色になり、徐々に花卉が淡いピンク色に変わっていく、グラデーションのとても美しい品種です。

昭和50（1975）年、区立高井戸中学校の当時の2年生が、国語の授業で「アンネの日記」を学び、感想文を冊子にまとめて、アンネの父オットー氏に送ったことから交流が始まり、翌年の昭和51（1976）年にオットー氏から同校へアンネのバラ3株が贈られました。

同校では代々、生徒会役員が新入生オリエンテーションのときに「世界の平和と人々の幸せという私たちの願いをこめて、このバラを育てていこう」と話し、バラが先輩から後輩へと受け継がれています。現在も、「アンネのバラ委員会」の生徒と、地域や保護者の方100人ほどで構成する「アンネのバラ・サポーターズ」が、世界の平和を願い、協力して大切に育てています。その結果、バラは約140株にまで増え、毎年美しい花を咲かせています。

